

北海道遺産  
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第86号

2019. 5.31

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ~ 午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

通算第21回（法人化第17回）

## NPO法人ピアソン会総会終了！

5月25日土曜日、ピアソン会活動開始後満21年を迎えた2019年度定期総会がピアソン記念館にて開催されました。

開会に先立ち、当会吉田理事長の挨拶、次に来賓の北見市教育委員会文化財課長長谷川様から、長年にわたる当会活動に対しての謝辞をいただきました。

議長に小川運営委員が選出され審議が始まりました。第1号議案の2018年度活動報告・会計報告が事務局からあり、質疑を受けた後、小林清美監査委員の、「適正に処理されていると確認した」と、監査報告がなされ、審議後了承されました。

次に第2号議案、2019年度事業計画（案）・会計予算（案）の審議に移りました。記念館の開館業務経費は受託事業費で委託料としての交付を受けていますが、ピアソン記念館事業費は全てピアソン会の独自予算で負担しています。そのため、本年の姉妹都市提携50周年記念事業に関わる事業費は、当会の負担となるため、支援団体からの寄付金や助成金が必要となりますが、先月北海道労働金庫北見支店から『15万円の寄付を予定している』と申し出がありました。との報告があり、一同感激の面持ちでした。



写真右／総会の様子。今回の総会は、出席の通知があった会員の「風邪で止むを得ず欠席します」との連絡が多くあり、委任状の多い総会となりました。

北見市・エリザベス市姉妹都市提携50周年記念（歓迎コンサート）

## 第21回グリーンコンサート開催案内

- ◎ 開催日時 : 2019年7月7日(日) 午後1時30分より午後3時まで（予定）
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館前庭 北見市幸町7丁目4番28号（雨天の場合中止）
- ◎ 出演団体 : 北見市立中央小学校プラスバンド部、市立北中学校吹奏楽部、北見工業大学日本赤十字北海道看護大学吹奏楽部、北見吹奏楽団、北見交響吹奏楽団
- ◎ その他 : エリザベス市よりの訪問団の歓迎。雨天の場合は午前10時に可否を決定します。

# 前年度の主な事業報告!

北見市指定管理者としてピアノン記念館の運営管理をメインとした事業と、ほっかいどう遺産W A O N による助成事業として行われた、ピアノンブックレット第6号「ピアノン夫妻伝道旅行日記」出版の報告がなされた。

## 《2018年度収入の部》

科 目	2017年度 決算額	2018年度 予算額	2018年度 決算額	増 減
会費収入	291,000	340,000	290,000	▲50,000
運営会員	90,000	100,000	95,000	▲5,000
賛助会員	81,000	90,000	75,000	▲15,000
フレンド会員	0	0	0	0
団体会員	120,000	150,000	120,000	▲30,000
寄付金収入	268,253	280,000	339,074	59,074
個人寄付	69,553	100,000	122,224	22,224
団体寄付	15,000	10,000	10,000	0
本の寄付	98,900	100,000	81,200	▲18,800
CDの寄付	0	0	0	0
絵葉書の寄付	99,800	70,000	125,650	55,650
その他	0		0	
助成金収入	0	200,000	250,000	50,000
	0	200,000	250,000	50,000
委託料収入	4,301,640	4,301,640	4,301,640	0
管理委託料	4,301,640	4,301,640	4,301,640	0
前受金	0	0	0	0
雑収入	6	0	10	10
今年度収入合計	4,860,899	4,921,640	5,180,724	259,084

2017年度繰越金 335,962円 +2018年度収入 5,180,724円 = 5,516,686円

## 2018年度《支出の部》

科 目	2017年度 決算額	2018年度 予算額	2018年度 決算額	増 減
指定管理受託事業	4,074,523	4,301,640	3,956,962	344,678
人件費	2,571,940	2,576,000	2,573,780	2,220
燃料費	171,390	237,000	181,001	55,999
印刷製本費	166,667	180,000	166,700	13,300
光熱水費	224,859	252,000	226,656	25,344
修繕費	32,600	50,000	26,400	23,600
通信運搬費	34,124	37,000	30,445	6,555
手数料	39,400	40,000	39,000	1,000
委託料	475,962	543,000	448,108	94,892
諸経費	252,722	68,000	165,793	▲97,793
消費税	104,853	318,640	99,079	219,561
ピアノン会経費	920,397	1,185,000	1,240,796	▲55,796
自主事業費	644,706	1,010,000	1,096,884	▲86,884
企画展事業	0	0	0	0
出版事業	10,000	300,000	384,700	▲84,700
ふれあい事業	437,260	450,000	305,339	144,661
コンサート事業	107,850	100,000	126,260	▲26,260
展示の充実事業	52,800	110,000	159,052	▲49,052
その他の事業	36,796	50,000	121,533	▲71,533
ピアノン会事務費	145,511	175,000	143,912	31,088
事務経費	0	10,000	0	10,000
通信費	86,625	90,000	83,708	6,292
会議費	59,886	65,000	36,652	28,348
旅費	0	0	0	0
雑費	0	10,000	23,552	▲13,552
予備費	0	970	0	970
今年度支出合計	4,864,740	5,487,610	5,197,758	289,852

今年度収入合計 5,516,686円 - 今年度支出合計 5,197,758円 = 次年度への繰越し 318,928円

# 新年度事業について

新年度事業では、今年度北見市が実施する姉妹都市エリザベス市との交流事業をメインとした事業が提案されました。

7月7日、日曜日に実施する「第21回グリーンコンサート」を歓迎コンサートとして開催し、エリザベス市長を団長とする訪問団をお迎えすることとなりました。

次に、エリザベス市への訪問事業としては、訪問団に、ピアノン夫妻の日本滞在時における英文資料（論文や、紀行文、日誌など）を、電子書籍化して、エリザベス市の図書館へ寄贈する事業が提案されました。ピアノン夫妻が、日本でのような活動をされていたのか、地元の人々にも理解してもらえようとの企画です。

さらに、来館者に好評の、『ピアノン記念館オリジナルグッズ』の製作にも力を入れ、自主事業に使える資金（寄付金を生みだすため、新グッズ開拓として、地元仁頃の「香りの会」が生産の和種ハッカの頒布に協力する事業が紹介されました。

最後に、役員改選の事務局提案である「現役員の再任」が議決され、審議は終了いたしました。

審議終了後、長らくピアノン会活動に協力されている根室標準町の渡辺さんから、新会員としての自己紹介がありました。出席者全員の温かい拍手で迎えられ総会終了となりました。

## 《2019年度支出予算》

科 目	2018年度 予算額	2018年度 決算額	2019年度 予算額
指定管理受託事業	4,301,640	3,956,962	4,341,420
人件費	2,576,000	2,573,780	2,576,000
燃料費	237,000	181,001	237,000
印刷製本費	180,000	166,700	180,000
光熱水費	252,000	226,656	252,000
修繕費	50,000	26,400	50,000
通信運搬費	37,000	30,445	37,000
手数料	40,000	39,000	40,000
委託料	543,000	448,108	543,000
諸経費	68,000	165,793	68,000
消費税	318,640	99,079	358,420
ピアノン会経費	1,185,000	1,240,796	1,280,000
自主事業費	1,010,000	1,096,884	1,100,000
企画展事業	0	0	0
出版事業	300,000	384,700	100,000
ふれあい事業	450,000	305,339	650,000
コンサート事業	100,000	126,260	140,000
展示の充実事業	110,000	159,052	20,000
その他の事業	50,000	121,533	190,000
ピアノン会事務費	175,000	143,912	180,000
事務経費	10,000	0	10,000
通信費	90,000	83,708	90,000
会議費	65,000	36,652	60,000
旅費	0	0	0
雑費	10,000	23,552	20,000
予備費	970	0	4,580
支出合計	5,487,610	5,197,758	5,626,000

## 《2019年度収入予算》

科 目	2018年度 予算額	2018年度 決算額	2019年度 予算額
会費収入	340,000	290,000	305,000
運営会員	100,000	95,000	95,000
賛助会員	90,000	75,000	90,000
フレンド会員	0	0	0
団体会員	150,000	120,000	120,000
寄付金収入	310,000	339,074	460,650
個人寄付	100,000	122,224	100,650
団体寄付	10,000	10,000	160,000
本の寄付	100,000	81,200	100,000
CDの寄付	0	0	0
絵葉書の寄付等	100,000	125,650	100,000
			0
助成金収入	200,000	250,000	200,000
助成金	200,000	250,000	200,000
委託料収入	4,301,640	4,301,640	4,341,420
指定管理委託料	4,301,640	4,341,640	4,341,420
前受金	0	0	0
雑収入	8	10	2
繰越金	335,962	335,962	318,928
収入合計	5,487,610	5,516,686	5,626,000

## 2019年度会費納入のお願い

- ① 運営会員（年会費5000円）
- ② 賛助会員（年会費3000円）
- ③ 団体会員（年会費10000円）

● 銀行振込は、北見信用金庫本店営業部、

口座名/特定非営利活動法人ピアノン会 口座番号/1018723 普通口座

● 郵便振込ご利用の場合は、同封の指定振込用紙をご使用下さい。

# 「ニュージューランドからの便り」第17回



～ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏～

\*2019.4.6

◆メッセージとピアソン会の出版物や新聞記事をありがとうございます。最近のもので特に興味深く思ったのは、1961年に北海道大学の研究者が札幌の降雪の状況を研究するために市の上空を飛ばす飛行機から紙片を飛ばした物語と写真でした。市民にはどこで拾ったかを詳細に書いてもらい、学校を通してそれを集めました。通りを、あたかもグラフ用紙から情報を得るようにして情報を照合したのです。日本ならではの実験のように思いました。

◆秋のように涼しく、ちょうど良い雨で、昨日はキャベツとカリフラワー、レタス、ホウレン草を植えました。庭の柵にカワセミが来ました。写真を送ります。



写真上：送られてきたカワセミの写真。

\*2019.4.16

◆ドナルド・キーンのさらなる記事ありがとうございます。また、キーンさんと瀬戸内さんの対談集もありがとうございます。読むのを楽しみにしています。

◆昨日、ウエリントンから姉の家へ姪

と子供たちがやってきました。学校休みが始まりました。弟も皆に会いに来ました。皆で地域の公園へクリケットをしに行きます。◆今朝のニュースで、パリのノートルダム寺院の火災をみました。損傷が抑えられると良いのですが。

\*2019.5.8

◆心地よい秋日和です。オークランドから成田経由千歳着(5/11、土)の準備は順調です。再度北海道を訪れ、皆さんと再会できるのを待ち遠しく思います。北見には5/27(月)から6/4(火)まで滞在する計画を立てています。皆さんやピアソン会の方々と再会できるのは素晴らしいことです。

\*2019.5.12

◆順調な旅を終え、昨夜千歳空港に予定通りに到着しました。今月末には北見の皆さんにお会いできるのを待っています。

\*2019.5.15

◆札幌に戻って日々楽しんでいきます。天候は良く、桜もまだ花をつけています。◆北見には5/27午後JRで着き、元の同僚の方の所に滞在します。5/30(木)夕刻には元の大学の方々と再会です。

\*2019.5.18

◆ピアソン会の方々と5/31(金)のディナーを楽しみにしています。札幌は風がありますが好天です。



北見市職員新人研修の若人!

4月6日、北見市に4月1日から採用された職員の研修として、50余名の若者が2班に分かれて来館しました。館員の「ピアソン夫妻の精神が北見の町づくりに現在も取り入れられている活動がありま

## 素敵な来館者!

す」など、開拓時の「心の支え」となっていたピアソン夫妻の活動話を聞いていました。

5月25日、「建築史家川島智生教授とめぐる道央・道東近代建築紀行」というツアー企画で、大阪・神戸を中心とした団体客22名が来館しました。川島教授はヴォーリズ建築の研究者でもあることから、北海道にヴォーリズ住宅建築作品として唯一残るピアソン邸を、「想像していたものより素晴らしい!」と、感激して館内・外観を丹念に見ていました。



写真上/150年前のオルガンに触れ、感激する新人職員の皆さん。

写真下/ピアソン夫妻と建築家ヴォーリズの親交について聞くツアー参加の皆さん。



のこ種のことなら、よっしーへ!!

「仁頃香りの会」が蒸溜した薄荷取り卸し油。1,000円で頒布!

Y09G-0043  
北見市北三栄西3丁目  
TEL:0157-57-3664  
定休日/毎週水曜日  
営業時間/10:00~19:00



和種ハッカ  
「仁頃香りの会」が蒸溜した薄荷取り卸し油。1,000円で頒布!



『ハツカ石鹸作り』終了報告

地産ハッカで爽やかな香りを!

4月14日の日曜日に開催した講習会「ハツカ石鹸作り」は、地元「仁頃香りの会」生産和種ハッカを使用して、参加者が思い思いのデザインで、素晴らしい手作り石鹸を作り上げ終了しました。

# ピアソン夫妻資料収集記

(7)

ピアソン会理事 玉置 義弘

見つけた資料の中に1907（明治40）年に開かれたプリンス頓大学卒業後25周年の同窓会誌がありました。ピアソン宣教師の住所は旭川になっており、近況報告は書かれていませんが、補遺として中国の上海から同窓会に書いたピアソンの手紙が掲載されていましたので、今回はそれを紹介します。翻訳は北原俊之氏にお願いしました。

1907年4月30日、中国、上海  
同期生の皆様、

「中国の」保定府を実際に訪問して、そこから皆様に報告の手紙を書くことができなかったことがとても心残りです。「ジャッジ・テイラーが信仰に生きて命を落とした場所、そして、そんな彼の忠義を讃えるため私たち同窓生が記念碑を建てた場所を私がこの目で見るとは、「今も変わらず」私の強い思いです。保定府は、上海からわずか6日間ほどで行ける場所です。「ジャッジ・テイラーと同僚だったミラー氏が、保定府までぜひ行ってみてはどうかと勧めてくれましたが、今回は不可能な様子でした。先日ミラー氏が私に語ってくれた話では、テイラーは中国国内随一の優れた宣教師の一人だったと思われるということです。もし皆さんが当地を訪れ、今この上海の大会に参加している国内全土から集まった宣教師達の顔ぶれを見たなら、テイラーのやってきたことはまさに賞賛に値するものだったと皆さんも賛同していただけたはず。私はこの大会に参

加して、数々のスピーチを聞きましただが、軍人あがりの老人、中国の奥地の人たちで特に老人がそのあまりにも旺盛な気迫と鋭さがあることに驚いてしまい、思わず顔を見入ってしまった。彼らの生来の迫力はまったく衰えていないのです。また、中年の男性たちも、その精悍な顔立ちから、危機が訪れた際でもしりごみなどしないように見えるのです。彼らのいきさまや向かうべき大きな課題などに比べると、「私のような」日本から来た一宣教師はちっぽけに感じられます。（中略）

1907年の春に朝鮮へ旅行した記録は、ピアソン・ブックレットの「日本 北海道 明治41年」に書かれていましたが、中国への旅行はこの同窓会誌の手紙見るまでは、全く知られていなかった出来事です。中国の上海へ出かけた理由は、「中国伝道百周年記念会議」が4月5日から5月8日まで開かれており、それに参加したためです。またこの同窓会員に宛てた手紙で触れられている「ジャッジ・テイラーとは、同窓生のジョージ・ヤードリー・テイラーの事で、彼は1882年のプリンス頓大学の卒業生の中で、ピアソン宣教師とは特に親しく、「ジャッジ判事」のあだ名で皆から呼ばれていたようです。テイラーはプリンス頓大学で学んだ後、ペンシルベニア大学で医学を修め1887年に長老派教会の医療宣教師に任命されて中国へ派遣され、

1900年6月30日に保定府で義和団事件に巻き込まれ、命を落としました。ピアソン宣教師は中国まで出かけても保定府まで行けなかった事が心残りです。この手紙を書いたのでしょう。

（前文略） 私たちがいる日本では、先駆的な胎動の時代から、着実な成長の時代へと変わりつつあります。夢のある話、たいていは、前置きを述べるだけで終わってしまうものです。しかし、（つらい苦しい生活をする）鋤を持った農民も、ゆくゆくは、馬6頭立ての刈り取り機に座っている（先進的な快適な生活をする）ものだという事を私たちは理解しています。私は、日本がどの方向に向かっているか、とか、中国が何をしようとしているのかを預言するつもりはありません。きっと太平洋は次代を担う海となるでしょうし、おそらく日本は、太平洋の覇者となるでしょう。近代化の過程や歴史の流れ、経済の動きなどとても興味深いものですが、それはあくまで観念的なことです。日常的な実生活こそが、最も重要なことです。黄金時代は、もうそこまでやって来ています。

忍ぶ人びとの姿は、玄関先を訪ねた犬を連れた（病気の物乞いの）ラザロに対して、中庭では支援する人や邪なことをそそのかす人がごちそうを食べていたりが身をわきまえない行動をしている家の（金持ちの）デビッドとは対照的に描かれている「活人画」そのものです。富をため込んだアメリカ人は、虚飾と栄光のために存在するのではなく、心の飢えで打ちひしがれた民族のために、そして、死を覚悟する地域で死の気配の中にたたずむ人びとのために存在するので、そのように思っています。

私は最近肉体的な限界もそろそろ見え始めていますが、伝道する使命感という良い刺激が自分の年齢を忘れさせて、気持ちを若返らせてくれていたのです。近頃伝道活動以外のことにはそれほど夢中になることはありませんが、私が伝道活動でできるささやかな仕事には十分すぎる情熱を感じていますので、ふるさとアメリカで郷愁を誘うような事々にも心を動かされません。ただ、同窓会に参加することというのは少なくとも私が郷愁を感じる部類のことではないと自分では思っていますが、「でも」心の奥底には参加したいという気持ちはあることはあります。ぜひとも大学に伺ってみたいですし、昔のプリンス頓・カレッジ時代の寄宿舎や（横木を平行的に渡した）柵がまだ残っているなら、そのあたりを散策して、誰かさんのことばでいえば、「こつそり」「懐かしい顔ぶれと握手を交わす。（Ⅱ立ちシヨンをす）」してみたいものです。以前の同窓会でたびたび顔を合わせた方々とお会いしたいのですが、ただ、あまり出席したことなかった方々（ばかり）なら、私は少し苦手なので、（いやなことを思

い出すこともないような）私のいる北海道の伝道地に帰りたくなくなってしまいかもしれません。1905年のニューヨークでの同窓会と、そこに私をお招きいただいたことが忘れられない思い出です。それではみなさまお元気で。 草々  
ジョージ・P・ピアソン

ピアソン宣教師の後半の手紙を読んでみて、外国人宣教師嫌いで有名だった内村鑑三が、ピアソン宣教師に会って、外国人宣教師にもこのような人がいると驚いたエピソードを思い出しました。ピアソン宣教師は、決して日本人に対して優越感を持っていないのです。その事が内村を驚かせたのでしょう。

この時の旅行で朝鮮には中国へ行く途中に寄ったのか、帰りに寄ったのか、また目的も判然としません。先のブックレットによれば「韓国のリバイバル云々」と書かれていますので、1903年から1906年にかけて元山で起こったリバイバル（大復興運動）が1907年なら平壤で起こったリバイバルに関連して朝鮮に立ち寄った可能性があるように思われますが、もう少し資料が必要です。（つづく）

## 編集後記

第21回ピアソン会総会も無事終了いたしました。今年度もご協力よろしくお願いたします。

今回の会報は総会報告を中心に掲載しました。まだお伝えする記事が予定されておりましたが次回の会報に掲載いたしますが、ホームページの「編集室から」に一部掲載いたします。（理事兼事務局局長）伊藤 悟